



企業誘致により4月に開校した「ウィザス ナビ高等学校」

経営学部養父分室が養父市商工会に設置され、異なる業種の企業が個々の特性を持ち寄り、新たな産業連携のあり方について調査研究がなされてきたところです。この専門機関を十分に活用した新たな産業の創出や流通ルートの構築に向け、企業、市、商工会、県立大学との連携を深めた取り組みをさらに進めます。

また、市内の商工業者の経営課題に対応する企業支援センターに、窓口相談業務、企業の個別案件についての指導助言を行う専門家の派遣および経営革新計画づくりを目的とした経営革新塾の開設を委託するなど、中小企業者の課題解決に努めます。

一方、平成19年度において、旧大谷小学校と旧西谷小学校に企業誘致が実現しました。引き続き、公共空き地スベールや廃校等を積極的に活用し、これに続く企業誘致に市を挙げて取り組みます。

次に観光振興です。市内には、県下最高峰の水ノ山や裾野に広がる鉢伏高原、天滝などの観光資源がありますが、この他にも歴史と文化に裏打ちされた貴重な資源が数多く埋もれています。これらの貴重な資源をまちづくり活動の中で掘り起こし、その価値を共有するとともに地域の誇りとして市外にPRしていかなければなりません。

昨年末、岩崎地区で、井戸知事と岩崎区民との対談が「さわやかトーク」として開

催されました。この席で知事が話された「地域間交流の推進」が、平成20年度の兵庫県の施策で「小規模集落元気作戦」と名づけられ具体化されます。

市では、まちづくりの考えの基本にこれらの施策を組み合わせ、市民と共に地域間交流を推進し、貴重な観光資源のPRと保全に力を入れたいと考えます。

合併時に制定された若者定住促進制度は、平成20年度をもって失効しますが、これに代わる新たな定住促進制度を検討します。

次に若者の健全育成です。養父市の未来を託す人材を育成するため、各学校に教育上の特色を打ち出し、児童・生徒それぞれの持つ能力を引き出す「特色ある学校づくり」を進めるとともに、養父市の資源を活用し、国が提唱する小学校児童の農山村自然体験学習に対応した地域づくりモデル地区指定に取り組みます。

八鹿中学校と青溪中学校の統合は、開設準備委員会の答申どおり校名を「八鹿青溪中

学校」と定め、平成20年度には校章も決定する運びとなっています。校舎建築においては、平成19年度から3カ年事業として整備を進めており、平成20年度は校舎の建築工事に着手します。

### 「快適なまちづくり」

安全な飲用水の安定確保は生活するうえで欠かせないものです。小佐簡易水道の取水設備の改修工事や北近畿豊岡自動車道の整備に伴う浅野浄水場移転関連整備、関宮中部簡易水道施設の浄水ろ過膜の更新を行い、安全安心な飲用水の安定確保を行います。

次に、昨年度から実施している資源ごみの回収です。各地域の生活環境の改善と地球環境に優しい環境形成を目的に、リサイクル運動を地域住民の手で実践していただいています。このリサイクル活動を通じ、「今まであまり話したことがない人と話をすることができ、楽しく作業ができました」という声もお聞きしており、新たな地域「ミニ二

ティ」の形成という思わぬ効果が出てきている状況を大変うれしく思っています。本年度も引き続きリサイクル運動の普及に努めます。

次に、道路の整備です。市では、現在、財政の建て直しを喫緊の課題として鋭意努力しているところであり、皆様からのご要望にすべてお応えすることができないことを、まずご理解いただきたいと思

います。このようなかで、集落内等において幅員が狭小で回路がない道路の整備を優先的に整備することを考えているため、臨時交付金道路整備事業により地域間を結び道路として鶴縄線、八鹿朝倉線、岩崎線、辺地対策事業として三谷線、市単独道路整備として上野小山線、上箇宮ノ前線、若杉線などを整備します。

また、今後老朽化する橋りよつの増加に対応するため、長寿命化修繕計画に着手し、従来の事後的な修繕および架け替えを予防的な修繕および計画的な架け替えに転換し、橋りよつの長寿命化と維持管